

# 酔いどれ 取材メモ

毎度おなじみ、酒好き事件記者の酒匂徳利さかわけりです。齢を重ねると1年が過ぎゆくのが早いこと、早いこと。2018年もあつという間に終わってしまったな。昨年も酒絡みの事件は多かった。毎回言わせてもらおうが、徳利の徳さんは酒を冒涇する奴を絶対に許さない。年末年始のこの時期、酒を飲む機会はず増える。流行りの「家飲み」で管を巻いている分には問題ないが、他所様の前では自分を見失うことなく飲んで欲しい。この酒飲みの基本中の基本を忘れないためにも、今回も酒絡みの事件を追ってみた。それが愛する酒への恩返しだと信じているから……。

若者が暴走したハロウィンが終わったと思ったら、クリスマスに年末年始。酒を飲む機会が増えるハイシーズンでもある。だが、シーズン到来のその前にも事件が起きていた。忘れないように記憶に残しておく。11月11日未明に、横浜市の商店街で起きた「通り魔事件」のことだ。刃物で複数回刺された女性会社社員は何とか

命を奪われずに済んだが、容疑者を捕まえてみると、なんと71歳のジジイだった。犯行の理由は単純に「カネを取る」ことだった。それは酒を飲むためのカネだと供述している。しかも容疑者の知人の談話によれば、「酒を飲むたにお金を貸してくれつてくる。借りてまで飲みたいというヤツ」「飲み方がだんだん汚くなる。酔っぱらっちゃって、うちにも帰れない」ことだ。たちの悪さはこの上ない。刃物で他人を襲うなど言語道断の許されない凶行だが、酒を飲むカネ欲しさに弱き女性を追いかけるなど尋常ではない。同情の余地まったくなし。

他にも秋口から年末にかけて、様々なヨッパライによる事件の報告が上がっている。公務員や聖職者が報道されるのは、絶対に犯してはいけない立場だからだ。「つい」とか、「覚えていない」という醜い言い訳は通用しない。

10月12日、JR東京駅のエスカレーターで女性のスカート内を盗撮したという容疑で逮捕されたのは、国交省のエロキヤリア(36)官僚。宴席後の帰りの犯行である。18日には、三重県の県立高校教諭(54)が近鉄津駅のエスカレーターで女子高生のスカート内を盗撮し逮捕されている。「酒に酔っていて覚えていないわけではない。相手が盗撮されたというならそうかもしれない」との供述、どこか他人事で、当事者意識がまるでない。

19日、神奈川県小田原署が現行犯逮捕したのは国立印刷局の職員(26)。小田原駅の連絡通路で、ベンチに座っている女性の太ももを触ったという容疑だ。20日には栃木県宇都宮の中

学教諭(54)が飲酒運転で逮捕された。現行犯逮捕されたのが朝5時だから夜通し飲んでの乗車とみて間違いないだろう。

26日には姫路市役所の3人の職員が懲戒処分を受けた。産業局係長(54)は酒気帯び運転の常習者で、環境局の技師(35)は酔った勢いで別の公務員を全治3カ月のフルボッコ。市長部の係長(52)はセクハラ処分とヨッパライ犯罪、揃い踏みだ。

酔って運転し、田んぼへ落ちたのは日光市役所の副主幹(54)。田に転がる愛車を持ち捨て、帰宅してこ就寝だったという。11月に入ると、飲食店店長を力任せにスリーパーホールドで締め上げた海上自衛隊の3等海曹(26)による暴行事件が報告されている。

この時期、空の安全を約束するパイロットやCAの酒での不祥事が明るみになった。大きく報道されたのでここでは詳細は省くがJAL、ANAの日本の空を飛ぶ両大手のコンプライアンス意識の欠落が露呈した。

聖職者や公務員でなくとも犯罪行為がぶつ飛んでいるヨッパライ事件はニュースになる。四日市市の無職の男(37)は警察官につばを吐きかけ公務

執行妨害、高知で供物の日本酒と3千円の賽銭下口の男(64)、同じく高知の土木作業員(69)は、借りていたカネの返済を迫られたことに腹を立てその知人の女性宅に押し掛け、「家焼くぞ、殺しちゃるぞ」と土佐弁で恐喝。那覇の作業員(49)は、酔った勢いで銀行強盗の荒業に出て御用。

いずれも酔いによって犯行の背中が押された形だが、新しい年、くれぐれもお酒はお気をつけてお飲み下さい。



イラスト：菊峰志麻